

平成25年度授業シラバスの詳細内容

科目名(英)	スポーツリテラシーⅣ (Sports LiteracyⅣ)	授業コード	E001501
担当教員名	竹田 隆行、後藤 幹雄		
配当学年	2	開講期	前期
必修・選択区分	選択	単位数	2
履修上の注意または履修条件	他の科目を履修していなくても、この科目だけで理解できるようになっています。ただし、2/3以上の出席がなければテストを受けることができません。		
受講心得	スポーツに対しては、各人がそれぞれのこだわり、考え方を持っています。こだわりは必要ですが、そこから新しい考えは生まれてきません。ゼロベースで物事を考える重要性を学んでもらいたい。		
教科書	スポーツ産業論 第5版		
参考文献及び指定図書			
関連科目	スポーツ経営学、地域とスポーツ、スポーツビジネス・マネジメント概論		

授業の目的	<p>スポーツ産業の発展はスポーツのビジネス化を進め、スポーツマネジメントやスポーツマーケティングの分野で多くの雇用を創出しました。アメリカはもとより、世界的な規模でスポーツビジネスの専門家の養成に力が注がれています。</p> <p>本講義では、スポーツ産業の現状を把握し、スポーツビジネスとは何かを学習します。試験に合格することだけでなく、修得した知識をビジネスの場で適応、応用できる技術として身につけることを目標とします。</p>
授業の概要	スポーツ経営学の領域であるスポーツ産業について学びます。

○授業計画	
学修内容	学修課題(予習・復習)
第1週：○第1回 進化するスポーツ産業	課題・確認
第2週：○第2回 クラブ事業のマネジメント	課題・確認
第3週：○第3回 クラブ事業のマネジメント	課題・確認
第4週：○第4回 スポーツイベントと集客戦略	課題・確認
第5週：○第5回 スポーツとファイナンス	課題・確認
第6週：○第6回 スポーツとファイナンス	課題・確認
第7週：○第7回 スポーツ・スポンサーシップ	課題・確認
第8週：○第8回 スポーツ資格制度	課題・確認
第9週：○第9回 日本のプロスポーツ	

		課題・確認
第10週：○第10回 アメリカのプロスポーツ		課題・確認
第11週：○第11回 ヨーロッパのプロスポーツ		課題・確認
第12週：○第12回 プロ契約とスポーツ・エージェント		課題・確認
第13週：○第13回 権利としてのスポーツ		課題・確認
第14週：○第14回 スポーツツーリズム		課題・確認
第15週：○第15回 スポーツと地域活性化戦略		課題・確認
第16週：期末試験 これまでの講義内容を試験範囲とします。試験時間は60分とします。		
授業の運営方法	(1)授業の形式	「講義形式」
	(2)複数担当の場合の方式	
	(3)アクティブ・ラーニング	
備考		

○単位を修得するために達成すべき到達目標	
【関心・意欲・態度】	これまで経験してきたスポーツ観にとらわれずに講義にのぞんで欲しい。
【知識・理解】	スポーツ産業の現状理解を理解する。
【技能・表現・コミュニケーション】	
【思考・判断・創造】	講義で学んだことを地域で活かせるアイデア・企画立案ができることを期待する。

○成績評価基準(合計100点)			合計欄	100点
到達目標の各観点と成績評価方法の関係および配点	期末試験・中間確認等 (テスト)	レポート・作品等 (提出物)	発表・その他 (無形成果)	
【関心・意欲・態度】 ※「学修に取り組む姿勢・意欲」を含む。	10点			
【知識・理解】 ※「専門能力(知識の獲得)」を含む。	70点			
【技能・表現・コミュニケーション】 ※「専門能力(知識の活用)」「チームで働く力」「前に踏み出す力」を含む。				
【思考・判断・創造】 ※「考え抜く力」を含む。	20点			
(「人間力」について) ※以上の観点に、「こころの力」(自己の能力を最大限に発揮するとともに、「自分自身」「他者」「自然」「文化」等との望ましい関係を築き、人格の向上を目指す能力)と「職業能力」(職業観、読解力、論理的思考、表現能力など、産業界の一員となり地域・社会に貢献するために必要な能力)を加えた能力が「人間力」です。				

○配点の明確でない成績評価方法における評価の実施方法と達成水準の目安	
成績評価方法	評価の実施方法と達成水準の目安
レポート・作品等 (提出物)	
発表・その他 (無形成果)	